

この章のテーマ

1. 三つの愛を育てる具体的な務めとして奉仕をいたしましょう。

そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、^{まよ}聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。 (ローマ12章1節)

【奉仕】

「奉仕」は、英語でサービスといいます。ですから奉仕には、「神様に喜んでいただく」という思いが込められているのです。

人生の目的は三つの愛に生きることでした。

(0) 神様のご愛に応えて…

- (1) 神様を愛する
- (2) 自分を愛する
- (3) 人々を愛する



この三つの愛と奉仕は密接に関わっていることにお気づきになったと思います。

ですから、奉仕というのは、タダ働きとか、してもしなくても良いというものではありません。むしろ、奉仕をすることは私たちの存在に関わることであり、奉仕をすることによって私たちは活き活きし成長することができるのです。

あなたは、神様と自分と人を喜ばせる愛のわざ(=奉仕)を家庭や社会や教会でしておられると思いますが、ここでは教会の奉仕について一緒に考えたいと思います。

【奉仕～喜ばせる心】

この世界にサンタクロースの心をもった人がたくさんいたら、それは・それは楽しい世界になるのではないのでしょうか？

サンタクロースの心とは、相手のことを思い、喜ばせて、感動させることを楽しむ心です。

きっとみなさんの周りにもそのような方々はたくさんいると思いますが、教会は特にサンタクロースの心をもった人が大勢いる楽しいところです。

教会ではしばしば、そのような兄弟姉妹の奉仕をされている美しい姿を見ることができます。

いつの間にか、トイレがきれいに掃除してあったり、お花を飾ってくださる姿を見たり、お休みしている方々を訪問したり、手紙を書いて下さったり、礼拝のために準備してくださっている方々、セルリーダーや分級リーダーとして奉仕して下さっている方々、賛美奉仕や執事という奉仕もあります。奉仕はお金が目的ではありません。誉められることが目的でもありません。ですから奉仕には、奉仕して下さる方の生き方がまっすぐに現れます。その方の人生の優先順位



が現れてきます。

神さまに喜んでいただきたい！人々に感動を与えたい！その姿を見る時、私たちはまず驚かされます。喜びが湧き出てきます。感謝の思いが満ちてきます。そして、感動するのです。神様は私たち全ての人に、奉仕の心を与えてくださっているのではないのでしょうか？

【神様の働きに参加する～祝福が奉仕をする人にも返ってくる】

そして奉仕をする時、奉仕をする人自身が癒しを受けますね。

神様と人々の必要に応えたい。喜ばせたい。感動させたい。…そのように思って奉仕をすると、奉仕をしているその人自身が大きな癒しを受け取るのです。

みなさんも経験からそのことを知っておられることでしょう。

私たちの生活の中には様々な問題が起きます。そしてイライラしたり、苦しんだりすることがあると思います。「問題は何だろうか」と考えることも大切であるかもしれません。

でも、愛することが訓練される奉仕をされてみたらいかがでしょうか？ 意外に簡単に問題をクリアできてしまうかもしれません。愛することはイライラや苦しみを乗り越えさせる強力な力をあなたに備えてくれるのです。

悪の心は、「あなたは他の人を助けるには忙しすぎる」「自分優先」の世界を信じ込ませようとします。でも神様はそれとは別の思いを与えてくださいました。三つの愛に生きることが鍵かもしれませんよ。

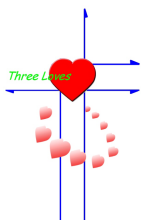
エペソ2：10をぜひ暗記してください。こう書かれています。

「私たちは神の作品であって良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。」あなたの中には既にキリスト・イエスの心があります。あなたは神の作品です。良い行いを楽しみながら生きていきたいと思われませんか？

マザー・テレサの名刺にはこう書かれあったそうです。「沈黙の実は祈り、祈りの実は信仰、信仰の実は愛、愛の実は奉仕、奉仕の実は平和。」

すべては神様の御前で過ごす祈りから始まります。

そしてそれは信仰を生み、信仰は愛を生み、愛は奉仕を生むのです。



【教会の奉仕】

さて、御霊の賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。 (I コリント 12章 4-7節)

教会には奉仕の場がたくさんあります。

どうぞチャンスをとらえて積極的に奉仕してください。

「このようなことはしたことがないので・・・」と思うような時もぜひ、トライしてください。そうすることで、今まで自分で気づけなかった自分に与えられているすばらしい賜物に気づくかもしれません。

「あまり関心がない」と思っていたことなのに、始めてみると興味がどんどん湧いてきて結局、生涯の仕事になったということも起こるかもしれません。

80：20の法則（パレートの法則）と呼ばれる経験則があります。全体の2割程の人が全体の8割の働きをしているというものです。

しかしながら、教会はイエス様の弟子の集まりです。イエス様の無条件の赦しと愛に精一杯答えようとするものたちの生命共同体です。

全員が心を合わせて三つの愛を育成すべきであるのに、もし全員の内の2割の人だけの奉仕が教会の働きのほとんどを支えている、ということになったら非常に残念なことをしていることになります。それぞれがごいっしょに奉仕し合い、生き活きと生き、思いと力を合わせてすばらしい教会にしてゆきましょう。

礼拝奉仕などはアンケートに基づいて分担してゆきます。けれども、それだけでは教会の働きが欠けてしまう場合もあります。例えば、教会学校の働きはとても大切であるけれども、教会学校の教師のなり手が無い場合などがあります。そのような場合には、ごく一部の兄弟姉妹方に任せるとはせず、その必要性のゆえに共に奉仕を担い合いましょう。

